



2021年2月2日

ニュースリリース

英 Crypto Quantique の「QuarkLink」IoT セキュリティ・プラットフォームが、あらゆる RoT に対応した高速で包括的な接続性とデバイス管理を実現

IoT における量子力学に基づくサイバー・セキュリティ・スペシャリストの英 Crypto Quantique は、同社のユニバーサル IoT セキュリティ・プラットフォーム「QuarkLink」が、独自のルート・オブ・トラスト (RoT) ソリューションを導入している半導体メーカーやシステムインテグレータをはじめ、他社ベンダーのソリューションにおいても利用可能となったことを発表しました。このプラットフォームは元来、量子力学が由来の Crypto Quantique 独自の Root of Trust (RoT) IP である QDID 向けに開発されたものです。

QuarkLink プラットフォームは、一般的な鍵管理サービスをはるかに超える広範な機能を備えています。QuarkLink が扱う範囲は、セキュアなファームウェアや暗号鍵、またセキュアな自動オンボーディングを含むプロビジョニングに加え、ファームウェアの暗号化、署名、OTA (Over The Air) によるセキュアなアップデート、証明書と鍵の更新および廃止を含むセキュリティ監視に及びます。QDID などの RoT に QuarkLink を導入すれば、ハードウェア・セキュリティ・モジュール (HSM) やキーインジェクションが不要になり、セキュリティを向上させながら、時間とコストの削減を実現できます。

QuarkLink は、IoT セキュリティに関する専門的な知識がなくても短時間でセットアップできます。エンド・ポイント・デバイスは暗号化 API を通じてサーバーに接続しますが、その際には数回キーを押すだけで自動プロセスが開始され、何千台ものデバイスを数秒でサーバープラットフォームにオンボーディングできます。同時に複数のプラットフォームを対象にすることも可能です。クラウドサービスとしては現在、AWS、Microsoft、Mosquito がサポートされており、今後さらに追加されていく予定です。

Crypto Quantique で CEO を務める、Shahram Mossayebi は、次のように述べています。「QuarkLink を当社以外の RoT ソリューションでも使用できれば、エンジニアが既存のデバイスへの IoT 導入規模をすばやく安全に調整できるようになります。それは、将来の設計に向けて、偽造不可能な RoT IP である QuarkLink の QDID にシームレスにアップグレードする礎にもなるでしょう」

QDID では、標準的な CMOS プロセスで製造されたチップにおける量子効果を測定することで、ランダムで偽造不可能な暗号鍵がシリコンによって、オンデマンドで生成されます。

Crypto Quantique について

英国ロンドンに本社を置く [Crypto Quantique](#) は、暗号システムのエキスパートである Shahram Mossayebi 博士 (CEO) と、複雑な並列コンピューターシステムに関する豊富な経験を持つ半導体設計者の Patrick Camilleri 博士 (CTO) が共同で設立した企業です。同社は、世界最高のセキュアなエンドツーエンドの IoT セキュリティ・プラットフォームを開発していますが、その核心にあるのが、世界初の量子力学に基づく半導体ハードウェア IP の QDID です。QDID により、標準の CMOS プロセスによって製造されたデバイス向けに、偽造不可能な一意の暗号鍵が複数生成されます。この暗号鍵は保存する必要がなく、独立して複数の用途にオンデマンドで使用できます。Crypto Quantique の汎用型 IoT セキュリティ・プラットフォーム、QuarkLink の暗号化 API と組み合わせれば、シリコン、デバイス、ソフトウェア、ソリューションプロバイダー間を安全につなぐことが可能になります。

Crypto Quantique の [LinkedIn](#).

メディアの問い合わせ先

Bob Jones, Originality B2B

bob.jones@originalityb2b.com

ミアキス・アソシエイツ 本田

honda@miacis.jp